

# 03

## 反知性主義

森本あんり 著

18世紀米国で始まった反

知性主義とは、信仰復興運動（リバイバルズム）が既成の教会のあり方や知性至上主義を批判し、独自の伝道を推し進めていく運動なしい立場が原点である。ここでは神学教育はおろか聖書さえ十分に読み込んでいない男たちが教会の外で型破りな説教を繰り広げて人々を回心させていく。彼らはみな個性的で大衆の心

をつかむのに長けていた。

奴隷や女性の解放、公民権などの運動に大きな影響を及ぼした反知性主義には、米国的平等という理念と反権威主義が深くかかわっている。アイクやブッシユ2世が知性派の対抗馬に圧勝した経緯や、小さな政府、政治と宗教の分離の真意もよくわかるし、マッカースムも一脈通じているという指摘も鋭い。米国という国の宗教性と社会文化を知るにとどまらず、日本への示唆も貴重だ。映画やエピソードの引用、比喩やユーモアにあふれて、難解という先入観とは無縁の知的醍醐味を堪能した。（純）



新潮選書  
1300円＋税